

# ひふみのあゆみ



## ひふみらいと 追加型投信/内外/資産複合 2024年9月度 月次ご報告書

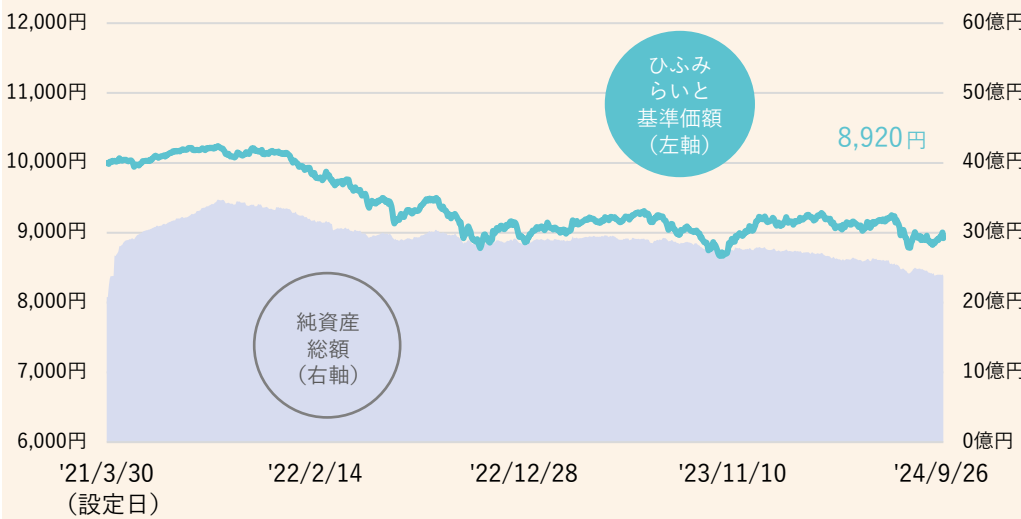
レオス・キャピタルワークスよりお客様へ  
資産形成のパートナーに「ひふみらいと」をお選びいただき、ありがとうございます。  
運用状況ならびに運用責任者からお客様へのメッセージなどをご報告します。



作成基準日：2024年9月30日

### 運用実績

#### 基準価額等の推移（日次）



※基準価額は1万口あたりです。また信託報酬控除後の値です。

※当レポートにおいて特段の注記がない場合は、基準日時点における組入比率や運用実績を表しています。また運用成績など表記の値については、小数点第三位を四捨五入して表示しています。そのため組入比率などでは合計が100%にならない場合があります。

※「運用成績」の「設定来」は、設定時の価額（10,000円）を起点として算出しております。

※「純資産総額」は100万円未満を切捨てて表示しています。

※「受益権総口数」とは、お客様に保有していただいている口数合計です。

\*「ひふみワールドファンド」は正式名称を『ひふみワールドファンド FOFs用（適格機関投資家専用）』といい、「ひふみワールドマザーファンド」を高位に組み入れています。

※「現金等」には未収・未払項目などが含まれるため、マイナスとなる場合があります。

※「基準価額の変動要因」は、月間の変動額を主な要因に分解した概算値であり、実際の数値とは異なる場合があります。また、四捨五入等の関係で、内訳の各数値の合計は基準価額変動額（月次）と合わない場合があります。「信託報酬・その他」のその他には、設定、解約の影響などがあります。

※「ひふみらいと」は複数の投資信託証券（投資対象ファンド）への投資を通じて実質的に債券や株式等へ投資し、投資対象ファンドの基本の組入比率：「ひふみグローバル債券マザーファンド」90%、「ひふみ投信マザーファンド」5%、「ひふみワールドファンド FOFs用（適格機関投資家専用）」5%を維持することを目指して運用を行なっています。（市況動向や運用の状況によっては組入比率が変動する場合があります）各投資対象ファンド等の状況については後述の「ご参考：マザーファンド基準価額の推移と運用実績」をご覧ください。

### 運用成績

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
ひふみらいと	0.30%	-2.97%	-3.78%	0.68%	-11.91%	-10.80%

### ひふみらいとの運用状況

基準価額	8,920円
純資産総額	23.82億円
受益権総口数	2,670,573,316口

### ひふみらいと 投資信託財産の構成

ひふみグローバル債券マザーファンド	89.94%
ひふみ投信マザーファンド	4.88%
ひふみワールドファンド*	5.02%
現金等	0.16%
合計	100.00%

### 分配の推移（1万口当たり、税引前）

第3期	2024年4月	0円
第2期	2023年4月	0円
第1期	2022年4月	0円
-	-	-
-	-	-
-	-	-
設定来合計		0円

### 基準価額の変動要因

基準価額変動額（月次）	+27円
〔組み入れファンド別変動要因内訳〕	
ひふみグローバル債券マザーファンド	+29円
ひふみ投信マザーファンド	-5円
ひふみワールドファンド*	+8円
信託報酬・その他	-5円
〔実質的な資産等項目別の変動要因内訳〕	
債券	+77円
株式・投資証券	+8円
為替	-48円
信託報酬・その他	-10円



## ひふみグローバル債券マザーファンド 運用状況

ひふみグローバル債券マザーファンドの状況	
純資産総額	153.79億円
組み入れ銘柄数	31銘柄
種別比率	
国債	68.50%
社債	13.78%
住宅ローン担保証券	7.50%
地方債	3.17%
特殊債	2.16%
国際機関債	1.89%
債券先物取引	-24.45%
現金等	27.45%
合計	100.00%

為替ヘッジ比率	
	0.00%

組み入れ上位5通貨 比率	
1 米ドル	34.30%
2 日本円	33.94%
3 ユーロ	20.12%
4 オーストラリア・ドル	3.17%
5 イギリス・ポンド	2.57%

ポートフォリオ特性値	
最終利回り	3.10%
デュレーション	8.5
格付比率	
AAA	27.80%
AA	11.02%
A	50.11%
BBB	8.07%
BB以下	-
資産別比率	
海外債券	63.07%
国内債券	33.94%
債券先物取引	-24.45%
現金等	27.45%
合計	100.00%

組み入れ上位5カ国 比率	
1 日本	37.69%
2 アメリカ	28.96%
3 スペイン	7.47%
4 イタリア	7.32%
5 フランス	3.27%

組み入れ上位10銘柄 比率						
銘柄名	種類	国	通貨	償還日	組入比率	
1 日本国債 (30年)	国債	日本	日本円	2052/12/20	11.73%	
2 日本国債 (40年)	国債	日本	日本円	2063/3/20	7.57%	
3 米国住宅ローン担保証券	住宅ローン担保証券	アメリカ	米ドル	2054/4/20	7.50%	
4 イタリア国債	国債	イタリア	ユーロ	2033/11/1	7.32%	
5 米国国債	国債	アメリカ	米ドル	2041/2/15	6.83%	
6 日本国債 (20年)	国債	日本	日本円	2042/12/20	5.67%	
7 三井住友フィナンシャルグループ	社債	日本	米ドル	2027/1/14	5.59%	
8 スペイン国債	国債	スペイン	ユーロ	2033/4/30	5.34%	
9 米国国債	国債	アメリカ	米ドル	2041/8/15	4.29%	
10 米国国債	国債	アメリカ	米ドル	2043/5/15	3.59%	

※「純資産総額」は100万円未満を切捨てて表示しています。

※「ポートフォリオ特性値」は、ファンドの組入債券等（現金等を含む）の各特性値（最終利回り、デュレーション）を、その組入比率で加重平均したものです。なお、債券先物を含めて計算しています。  
（Bloombergの情報を基にレオス・キャピタルワークス株式会社作成）  
最終利回りは、ファンドが投資している債券等の特性を示すために各債券の利回りから算出したものであり、ファンドの運用成果を示唆、保証するものではありません。  
デュレーションは、金利の変動による債券価格の感応度を表しています。値が大きいくほど金利変動に対する債券価格の変動が大きくなります。

※各比率は、ひふみグローバル債券マザーファンドの純資産総額に対する比率を表示しております。

※「種別比率」「資産別比率」の現金等は、純資産総額から有価証券時価総額を差し引いたコールローン、その他の資産です。なお、ヘッジ目的で先物取引を利用する場合があります。

※格付は、ムーディーズおよびS&Pの格付のうち高いものを採用し、S&Pの格付形式で表示しています。

※「組み入れ上位5カ国比率」は原則として発行国で区分しております。なお、国には地域が含まれます。また、国際機関等特定の国に分類しない場合があります。

※「格付比率」「組み入れ上位5通貨比率」「組み入れ上位5カ国比率」「組み入れ上位10銘柄比率」は、現物資産について表示しております。

※「為替ヘッジ比率」は、外貨建資産の時価総額に対する為替予約評価額の比率です。売買等の計上タイミングや市況動向により比率が100%を超える場合があります。

## ひふみ投信マザーファンド 運用状況

ひふみ投信マザーファンドの状況	
純資産総額	8,463.94億円
組み入れ銘柄数	204銘柄
資産配分比率	
国内株式	93.17%
海外株式	4.69%
海外投資証券	-
現金等	2.14%
合計	100.00%
市場別比率	
プライム市場	87.77%
スタンダード市場	2.90%
グロース市場	2.49%
その他海外株	4.69%
現金等	2.14%
合計	100.00%

組み入れ上位10業種 比率	
1 電気機器	14.45%
2 情報・通信業	10.49%
3 サービス業	9.04%
4 機械	8.95%
5 小売業	6.86%
6 建設業	6.13%
7 銀行業	5.21%
8 化学	3.48%
9 その他金融業	2.91%
10 保険業	2.77%

※「純資産総額」は100万円未満を切捨てて表示しています。

※各比率は、ひふみ投信マザーファンドの純資産総額に対する比率を表示しております。

※「資産配分比率」「市場別比率」の現金等は、純資産総額から有価証券時価総額を差し引いたコールローン、その他の資産です。

※「資産配分比率」の株式には新株予約権を含む場合があります。「海外投資証券」はREIT（不動産投資信託）等です。

※「組み入れ上位10業種比率」は国内株式における上位業種を表示しています。

※「組み入れ上位10業種比率」「組み入れ上位10銘柄比率」の業種は、東証33業種分類を用いて表示しています。なお、海外株式、海外投資証券については「その他海外株」として表示しています。

※「組み入れ上位10銘柄比率」の規模は、基準日時点の時価総額と以下の区分に基づき作成しています。

大型(3,000億円以上)

中小型(300億円以上、3,000億円未満)

超小型(300億円未満)

組み入れ上位10銘柄 比率						
	銘柄名	銘柄コード	規模	上場市場	業種	組入比率
1	日本郵船	9101	大型	プライム市場	海運業	2.22%
2	富士通	6702	大型	プライム市場	電気機器	1.73%
3	日本製鋼所	5631	大型	プライム市場	機械	1.57%
4	三井住友フィナンシャルグループ	8316	大型	プライム市場	銀行業	1.56%
5	オリックス	8591	大型	プライム市場	その他金融業	1.49%
6	M & A 総研ホールディングス	9552	中小型	プライム市場	サービス業	1.48%
7	THE GOLDMAN SACHS GROUP, INC	GS	大型	NYSE	その他海外株	1.46%
8	T D K	6762	大型	プライム市場	電気機器	1.45%
9	インターネットイニシアティブ	3774	大型	プライム市場	情報・通信業	1.42%
10	GMO ペイメントゲートウェイ	3769	大型	プライム市場	情報・通信業	1.40%

## ひふみワールドファンド\* 運用状況

純資産総額	151.42億円	投資信託財産の構成
		ひふみワールドマザーファンド 100.12%
		現金等 -0.12%
		合計 100.00%

\*「ひふみワールドファンド」は正式名称を『ひふみワールドファンド FOFs用（適格機関投資家専用）』といい、「ひふみワールドマザーファンド」を高位に組み入れています。

※「純資産総額」は100万円未満を切捨てて表示しています。

※各比率は、純資産総額に対する比率を表示しています。

※現金等は、純資産総額から有価証券時価総額を差し引いたコールローン、その他の資産です。未収・未払項目などが含まれるため、マイナスとなる場合があります。

※「資産配分比率」の株式には、新株予約権を含む場合があります。海外投資証券はREIT（不動産投資信託）等です。

※「組み入れ上位10カ国比率」「組み入れ上位10銘柄比率」の国は、原則として発行国で区分しております。なお、国には地域が含まれます。

※「組み入れ上位10業種比率」「組み入れ上位10銘柄比率」の業種は、株式における上位業種を表示し、原則としてGICS（世界産業分類基準）の産業グループ分類に準じて表示しております。

## ひふみワールドマザーファンド 運用状況

ひふみワールドマザーファンドの状況	組み入れ上位10カ国 比率
純資産総額 3,056.78億円	1 アメリカ 69.49%
組み入れ銘柄数 138銘柄	2 ドイツ 3.61%
	3 イタリア 3.60%
	4 フランス 3.50%
	5 イギリス 3.40%
	6 スイス 2.62%
	7 スウェーデン 2.43%
	8 インド 2.40%
	9 中国 2.24%
	10 デンマーク 1.34%

組み入れ上位10業種 比率	組み入れ上位10通貨 比率
1 資本財 20.16%	1 米ドル 78.74%
2 半導体・半導体製造装置 7.90%	2 ユーロ 8.76%
3 テクノロジー・ハードウェアおよび機器 7.72%	3 香港ドル 2.24%
4 金融サービス 5.90%	4 スイス・フラン 2.11%
5 医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス 5.90%	5 イギリス・ポンド 1.85%
6 ソフトウェア・サービス 5.64%	6 デンマーク・クローネ 1.34%
7 メディア・娯楽 5.17%	7 スウェーデン・クローナ 1.16%
8 一般消費財・サービス流通・小売り 5.15%	8 ノルウェー・クローネ 0.45%
9 食品・飲料・タバコ 3.67%	9 台湾ドル 0.40%
10 耐久消費財・アパレル 3.56%	10 フィリピン・ペソ 0.00%

組み入れ上位10銘柄 比率				
銘柄名	国	通貨	業種	組入比率
1 MTU AERO ENGINES AG	ドイツ	ユーロ	資本財	2.57%
2 FERRARI NV	イタリア	米ドル	自動車・自動車部品	2.46%
3 MICROSOFT CORPORATION	アメリカ	米ドル	ソフトウェア・サービス	2.42%
4 AMAZON.COM, INC	アメリカ	米ドル	一般消費財・サービス流通・小売り	2.36%
5 THE GOLDMAN SACHS GROUP, INC	アメリカ	米ドル	金融サービス	1.73%
6 EMERSON ELECTRIC CO	アメリカ	米ドル	資本財	1.72%
7 MOTOROLA SOLUTIONS, INC	アメリカ	米ドル	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	1.66%
8 SEAGATE TECHNOLOGY HOLDINGS	アメリカ	米ドル	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	1.64%
9 RTX CORPORATION	アメリカ	米ドル	資本財	1.62%
10 CITIGROUP INC	アメリカ	米ドル	銀行	1.58%

ひふみグローバル債券マザーファンド 基準価額の推移（日次）



運用成績	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	ひふみらいと設定来
ひふみグローバル債券マザーファンド	0.36%	-2.52%	-3.70%	-0.83%	-14.35%	-13.45%

ひふみ投信マザーファンド 基準価額の推移（日次）



運用成績	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	ひふみらいと設定来
ひふみ投信マザーファンド	-1.23%	-6.10%	-6.86%	12.58%	12.70%	16.32%

ひふみワールドマザーファンド 基準価額の推移（日次）



運用成績	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	ひふみらいと設定来
ひふみワールドマザーファンド	1.89%	-6.57%	1.85%	28.57%	46.87%	60.90%

※「ひふみらいと」が直接または間接的に投資している各投資信託証券の基準価額の推移と運用成績を、「ひふみらいと」の当初設定日の前営業日（2021年3月29日）を10,000として指数化して作成、算出しております。

※運用成績は小数点第三位を四捨五入して表示しています。「ひふみらいと設定来」は、「ひふみらいと」の設定日の前営業日（2021年3月29日）（「ひふみグローバル債券マザーファンド」は当初設定時）を起点として算出しております。

※「ひふみらいと」の投資対象ファンドの一つである「ひふみワールドファンドFOFs用（適格機関投資家専用）」は、「ひふみワールドマザーファンド」を高位に組み入れています。ここでは、「ひふみワールドマザーファンド」の基準価額の推移と運用成績を記載しております。

月次の運用実績は、当ファンドの運用成績欄および投資対象ファンドの基準価額の推移と運用成績欄をご参照いただければ幸いです。以下、先月の投資行動や投資環境、今後に向けて議論していたことなどをお伝えします。

#### 【ひふみ投信マザーファンド】

先月の投資行動としては、円高対応や米国利下げへの対応、中小型株の買い増しなどを行ないました。9月は米国で利下げが開始されましたので、金利低下の好影響が早く出やすいとされる住宅市場に関連し、米国での住宅エクスポージャーのある銘柄を買いました。また政治や地政学リスクなどの不透明感も高いことから、ポートフォリオの相場感度を下げる性質のある銘柄の買いも行ないました。

#### 【ひふみワールドファンドFOFs用（適格機関投資家専用）】

先月の投資行動としては、金利低下の恩恵を受ける住宅関連企業の積み増しを行ないました。具体的には住宅メーカーや部材メーカーなどです。新築一戸建ての建設がまた増えると見えています。こうした銘柄もアナリストが海外出張で取材をしてきた企業です。その他にも、消費が減速し得るなかでも堅調に会員数やビューワーを増やしているコンテンツプラットフォームも買い増ししました。

#### 【ひふみグローバル債券マザーファンド】

日本の国債について、10年金利は低下基調となりました。日本銀行が9月の会合で政策金利の据え置きを決めたうえ、植田総裁が記者会見で、政策判断には時間的な余裕があるとの発言をしたことなどで、追加利上げが遠のくとの見方が広がりました。

海外については、米国ではFRB（連邦準備制度理事会）が0.5%の、通常想定されるよりも大きな利下げを決定しました。過去約2年半の間、利上げと高金利の維持による金融引き締めを行なってきましたが、ようやく政策が転換しました。米国の長期金利は月間では低下しましたが、市場でもかなり織り込まれていたこともあって、利下げ決定自体の影響は限定的でした。欧州については少し多めに持っていたスペイン国債を売り、一方でフランス国債の金利が上昇して割安感が出ていたので、分散投資の意味合いもあってフランス国債を買いました。引き続き、実質的な利回りの高い海外の国債を多めに運用を継続しています。

これからも株式、債券チームの総力を結集し、全力で運用してまいります。

(10月1日)



ひふみらいと  
ファンドマネージャー  
橋本 裕一

※TOPIXは、すべてTOPIX（配当込み）を用いています。TOPIX（配当込み）は当ファンドのベンチマーク（運用する際に目標とする基準）ではありませんが、参考として記載しています。TOPIXは、株式会社J P X総研が算出、公表する株価指数です。日本の株式市場を広範に網羅すると共に、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により算出されます。

※TOPIX等の指数値およびTOPIX等に係る標章または商標は、株式会社J P X総研または株式会社J P X総研の関連会社（以下「J P X」といいます。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIX等に関するすべての権利・ノウハウおよびTOPIX等に係る標章または商標に関するすべての権利はJ P Xが有します。J P Xは、TOPIX等の指数値の算出または公表の誤謬、遅延または中断に対し、責任を負いません。当ファンドは、J P Xにより提供、保証または販売されるものではなく、当ファンドの設定、販売および販売促進活動に起因するいかなる損害に対してもJ P Xは責任を負いません。

ご存じのように石破茂氏が自民党総裁選で勝利し首相に就任しました。金融政策への影響を考察します。

石破氏は従来から、アベノミクスからの脱却、利上げ、円安修正に積極的な姿勢を明確にしており、特に株式市場では警戒感が高まっております。しかし、当選後はこれらの考えを封印し、岸田政権の継続を表明して、今後の利上げに対しても慎重な姿勢を示しています。また、個人的に驚いたのは「デフレ脱却を最優先」とし金融緩和を継続するという点です。茂木前幹事長等の発言から金融政策の転換が意識され、実際に0.25%の利上げが行なわれた岸田政権終盤よりも、利上げに対する姿勢は後退している可能性があります。

また、日本銀行も9月の金融政策決定会合において、米国経済の不確実性を指摘し、今後の利上げに慎重な姿勢を示しました。これらの政府、日本銀行の姿勢は方向性としては円金利低下、円安につながるものの、150円/ドル台では再び円安懸念が高まり利上げの圧力が強まる可能性もあり、注視しております。

一方、米国10年金利は小幅に低下（債券価格は上昇）しました。9月のFOMC（連邦公開市場委員会）では、直前まで0.25%の利下げを織り込んでいましたが、メディアへの積極的なリークと見られる動きがあり、結局0.5%の利下げが決定されました。選挙前という一過性のものであれば、今後しばらくは毎回0.25%利下げが想定されるものの、中立金利までの距離はかなりあるため（現状の短期金利はインフレ対比が高すぎる）、今後2回程度0.5%の利下げを選ぶ可能性もあります。市場の織込みは、年内あと2回の会合に対して0.75%程度になっております。運用に関しては、我々は来年以降の利下げを織り込みすぎていると評価しており、財政悪化を意識していることにより金利に上昇圧力がかかっている長期ゾーンを選好しております。

為替に関しては、以上のような日米金利に対する見方も踏まえて、円安方向へのやり戻しを予想しております。中期的には金利差を上回るほどの円高は起きにくいという考えも変えておりません。為替リスクを甘受しつつ、外国債券の高い利回りを享受するのが当面望ましいと考えております。

どうぞよろしくお願いいたします。

(9月30日)



ひふみグローバル債券  
マザーファンド  
ファンドマネージャー  
福室 光生

### 債券ってなに？～債券の基礎知識～【YouTube】

ひふみらいとがひふみグローバル債券マザーファンドを通じて投資している「債券」について、いまさら聞けない基礎知識を約10分で解説する動画をYouTubeの公式チャンネルにて好評配信中です。

専門用語をできるだけ使わずに、当社社員が分かりやすくお伝えしております。

ぜひご視聴いただき、債券運用への理解の一助としていただければ幸いです。



レオス・キャピタルワークス  
【投資信託「ひふみ」公式】YouTubeチャンネル  
登録者数2万人突破！  
チャンネル登録をお願いします！

2024年9月の日本株式市場は、日経平均株価が前月末比-1.88%、TOPIX（配当込み）が-1.53%と軟調でした。ひふみ投信マザーファンドは-1.23%でしたので、若干ですが市場を上回りました。

月の前半は米国経済指標の悪化による円高傾向から日本株も下落していましたが、米国CPI（消費者物価指数）が市場予想を上回ると、円安を背景に日本株が上昇しました。FRB（連邦準備制度理事会）の利下げ発表後は、イベント通過の安心感から株価が世界的にも上昇しました。9月中旬には成長株が選好され、特に過去に売られ続けてきた小型株が優位な相場となったのが特徴です。逆に月末には石破氏が自民党総裁に当選したことから、増税や利上げが意識され株価は急落し、ドル円も円高傾向に転じました。

10月から次期四半期に入ります。7月～9月の相場を振り返ってみても、非常に相場の上下の振幅が大きくなりました。8月5日の相場は一般メディアでも話題になったため、受益者の皆様もご関心が高かったと思います。同時にご心配をおかけしたとも思っています。私たちの運用は、大きく何かのテーマに依存することなく、種々雑多なテーマを選定しています。割安株がよい時や成長株がよい時は、ある種、季節の旬の食材のような側面があります。相場が大きく変動しているとき、その季節が変わっていると捉えています。以下に整理します。

#### ■米国金融緩和期入り vs 日本金融引き締め期入り（の可能性）

米国は物価、雇用の両側面を確認しつつも、金融緩和の時期に入っています。元々5%の政策金利があり、下げ幅に余裕があるため、時間をかけながら利下げしていくと見ています。米国の成長株市場に期待が集まりますが、経済のクラッシュが起きなければ、景気循環株の復活も視野に入れる展開となりそうです。一方の日本は金融引き締めに挑戦しています。ある程度の円安水準を維持しないと、物価はあっという間に落ちてしまいます。そのため、じっくりと時間をかけながら引き上げられるかが鍵になります。

#### ■米国大統領選挙

そろそろ11月の大統領選挙です。そこがひとつの天王山になりそうです。トランプ氏なのかハリス氏なのか、まだよくわからない状況です。しかし、どちらの陣営になっても米国内では投資が活況になるでしょう。中国や中東を意識した動きも引き続き活況になると見ています。

#### ■日本解散総選挙

石破新内閣が組閣され、10月27日に解散をするという流れが出来上がりつつあります。その結果の見通しはまだ不透明ですが、岸田氏の時のように石破氏が自分の政治思想を現実路線に寄せたように見えるかどうかは鍵です。

#### ■私たちの目線

近年、なかなか相場のテーマにならなかった成長株や中小型株も、荒れる相場の中で再注目されるようになりました。面白いと思える新興企業が続々と上場しています。私たちは相変わらずこの分野にワクワクしています。割安株の中にも大きくガバナンスを強化し、市場での評価も良化しました。こちらも私たちの興味を強く引いています。つまり、日本株は上記のような論点が多くあれど、かなりチャンスがある市場だと考えています。

以上のように、この10月～12月期はイベントが目白押しです。12月に多くの方がよい年末になったと言えるような展開を願いながら、引き続き私たちも調査運用に尽力していきます。よろしく願い申し上げます。

(10月2日)



ひふみ投信マザーファンド  
ファンドマネージャー  
藤野 英人

※日経平均株価に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は株式会社日本経済新聞社に帰属します。

※各指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。



9月の米国株式市場は上昇を続けました。月初は8月分の雇用統計が市場予想よりも悪い内容となり、景気悪化への懸念から下げて始まりましたが、その後は半導体各社経営陣から需要について楽観的なコメントが出てきたことから反発しました。月半ばには米国連邦公開市場委員会（FOMC）が開催され、利下げ幅は市場予想通りの0.50%でしたが、FOMC委員の2026年までの利下げ見通しが前回発表の見通しよりもさらに低下し、明確な緩和サイクルに入ったことを市場は好感し、米国株式市場は史上最高値を更新しました。

2000年代の前半、BRICsという言葉がもてはやされた時代がありました。BRICsとはブラジル、ロシア、インド、中国など、その当時、将来的に大きな経済成長が見込まれた新興国のグループを指します。貧困国から這い上がってこようとしていた人口大国インド、中国の資源爆食により高騰していた資源相場を背景に、景気が沸騰していたブラジルとロシア、共産党の経済運営が極めてうまくいき輸出主導の経済体制を構築し中産階級が勃興していた中国、などそれぞれが当時はまさに先進国をかすませるほどの魅力を発していました。2003年初頭にドットコムバブル後の底値を確認し上昇相場に入ると、BRICsが組み入れられている新興国株式市場はそこから4倍以上も上昇した一方、先進国は2倍程度にしかならないなど、株式市場でもBRICsをはじめとする新興国が非常に熱い時期があり、新興国の株式市場はリーマンショックもうまく乗り越え、2011年頃までは先進国市場をアウトパフォームしていました。

しかし2010年代半ば以降雲行きが怪しくなります。中国の経済成長率がどんどん低下し、不動産問題が顕在化しました。ブラジルもロシアも資源相場が低迷するとともに、経済成長率がマイナスにまで低迷しました。インドだけは奥底から湧き上がる成長への渴望をドライバーに今なお安定した高成長を続けています。私たちレオスも複数のメンバーがこの1年でインドを訪問し、その熱気を肌で感じています。

一方で、私たちはそういった途上国の熱気だけで投資をすることのリスクも知っています。レオスのメンバーにもブラジルが熱かった頃の出張経験者がおり、あの熱気はずっと続くものだと思わせるものがありました。しかし、上述の通りブラジルはその後長期的な景気低迷と政治的混乱に苦しんでいます。熱気は熱気として体全体で素直に感じつつも、頭はクールダウンさせ冷静な判断力を失わないようにすることも、お客様の資産を守るうえでは極めて重要です。

また、今だめだと言われているところに回復の萌芽がないかどうかを調査することも、超過収益の獲得に必要な作業です。そこで、今年11月に南米出張にメンバーが出かけ、現地の人と対面で議論し、投資の芽が出ていないかどうか見てまいります。セミナーのみならず、ポートフォリオを通じて、その出張の成果を皆様にお伝えすることを楽しみにしています。

引き続き、レオスとひふみらいとをよろしく願いいたします。

(10月2日)



ひふみワールドマザーファンド  
ファンドマネージャー

湯浅 光裕

※各指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。



## 米本格利下げへ、世界的な利下げ局面鮮明に 中国株急反騰、欧米株最高値圏、日本株乱高下

主要国の金融政策は、最後まで高金利を維持してきた米国が9月の会合で0.5%の大幅利下げに踏切り、世界的な利下げ局面入りが鮮明になってきました。米国では物価の抑制が進み、安定目標にほぼ到達する中で今後、雇用の悪化を防ぐため、過剰に引き上げていた政策金利を概ね3%弱の中立金利水準まで引き下げる姿勢とみられます。為替は内外金利差が縮小し、円高余地が大きいとみられます。日銀は長期デフレからの脱却や経済の正常化を確認しながら超緩和策の修正（利上げ）姿勢ですが、世界景気の減速や円高などからハードルが高くなるでしょう。

世界経済にはいくつかのリスクがありますが、ベースシナリオとしては失速を回避しながら減速基調（ほぼ巡航速度）を辿るとみられます。不動産不況と景気悪化が強まっていた中国は金融緩和や不動産・株式市場の支援策などを9月下旬に打ち出し、5%成長目標の達成に本腰を入れています。原油価格は、サウジアラビアの石油政策が価格から量(市場シェア)重視へ転換したとみられ、軟化要因になりそうですが、一方で、イスラエルとハマス、ヒズボラとの戦闘激化やイランとの軍事的緊張などが上昇要因になり、強弱綱引きの構図になっています。

米国大統領選挙は11月5日の投票日に向けて、民主党・ハリス候補と共和党・トランプ候補が大接戦です。ハリス氏は左傾色が強く、トランプ氏は成長路線を打ち出すなど、政策面で大きな相違がありますが、政策実行（法案成立）の観点からは議会選挙が注目されます。世論調査などからみると、上院は共和党が過半数を獲得する可能性が高く、仮に上院を共和党がおさえると、ハリス氏が勝利しても左傾色の強い政策は成立が難しく、現行のバイデン政権の政策がほぼ継続されるでしょう。一方、トランプ氏が勝利し、議会多数派も共和党が握る「共和統一政府」の場合にはトランプ政策が一気に進み、今後4年間の政策は劇的に変化しそうです。

日本では石破新政権が誕生し、10月27日に衆院選挙が行なわれます。自民党に対する支持率は回復傾向の一方で、立憲民主党など野党の支持率は大きく改善していません。政治とカネの問題で自民党に対する国民の批判が強いですが、野党の選挙協力体制の不備などから、与党が過半数を維持するとみられます。一方、与党が過半数割れになる場合には、政権交代が現実味を増すなど政治不安が一気に高まるとみられますが、あくまでテールリスク（発生確率は低いものの、発生すると非常に大きな損失を被ることになるリスク）だと思います。

主要国株価は、経済対策を好感して中国株が急反騰し、景気が減速基調を辿る米国や欧州では金利低下期待を牽引役に株価が最高値圏です。一方、日本株は7月以降、乱高下を交える中で出遅れの色彩が強まっています。金利低下局面の米欧株価は情報技術などのハイテク株や金利敏感株が市場人気を集めそうです。日本株は政治動向をにらみながら、もみ合いが予想されます。主要国株価は米国大統領選挙を境にリスク回避的な動きがリスク選好に転じるのか注目です。

(10月3日)

## 運用メンバーからのメッセージ

毎月、トピックを用意して運用メンバーのコメントを集めています。  
多様な考えや価値観をお届けすることを通じて、新しい視点を持っていただくきっかけになれば幸いです。

### 今月のトピック

大谷翔平選手がMLBの記録を更新し続けていますが、「記録更新」や「新記録」という言葉で、皆さんが連想することを教えてください。投資家としての視点、個人の視点、どちらでも構いません。



Fujino Hideto  
藤野 英人  
代表取締役社長  
最高投資責任者

記録は常に過去の数字ではなく、未来に未来に、数字をよくしていくと考えています。運用者としての考えです。



Yuasa Mitsuhiro  
湯浅 光裕  
代表取締役副社長

世界人口の増加です。これまで誰も経験したことのない人口更新を続け、100億人は通過点となり、その後はどうなるのでしょうか。



Sasaki Yasuto  
佐々木 靖人  
運用本部長  
シニア・ファンドマネージャー

子育てで、子供が全然できない「ゼロ」の状態から、できるようになる「1」の状態になると感動します。個人的には「7」くらいからゆっくりと「8」「9」と上がっていく過程の方にも心を動かされるんだとわかりました。そういう苦勞を愉しめるように生きるとよいよと子供の姿に教えられています。



Senoh Masanao  
妹尾 昌直  
運用副本部長  
株式戦略部長  
シニア・アナリスト

さまざまな分野で記録を作っている方々には尊敬しかありませんが、目の前の小さな目標やハードルを少しずつ乗り越える事で自分なりの成長や更新を味わっていきたいと思います。



Takahashi Ryo  
高橋 亮  
シニア・アナリスト  
シニア・ファンドマネージャー

ラジコンで自分の記録を超えるとやっぱり嬉しいですね。ラジコンというとおもちゃのようなイメージが持たれがちですが、これはeスポーツと同様のスポーツ競技です。長年の経験と勘のもたらすプロポ操作も重要ですが、それ以上に時速80kmで走る車を操るには動体視力が重要で、若いことは極めて有利です。おじさんドライバーはふっと集中力が切れた瞬間に壁にぶつけて大破させる人もいます。



Naito Makoto  
内藤 誠  
シニア・アナリスト  
ファンドマネージャー

この業界にいる以上、「過去最高益」や「最高益更新」を連想してしまいます。しかし、重要なのは過去の事実ではなく、将来への期待値とそれを上回る実績だと思ってます。目の前の数字を正確に認識した上で、企業の将来成長を的確に予想していきます！

## 運用メンバーからのメッセージ



Zhou Huan  
周 歆  
シニア・アナリスト

記録ではないですが、進歩し続けるという意味でいうと、半導体微細化におけるムーアの法則が連想されます。集積回路あたりの部品数が毎年2倍になるという1965年に提出された仮説は直近まで実行され続けて、足元は3ナノで当時より数千倍もの性能向上を実現できました。エンジニアの努力と創造力を尊敬します。



Kubo Tomohiko  
久保 智彦  
シニア・アナリスト

ようやく過ごしやすくなってきましたが、今年の夏の猛暑は記録的でしたね。本当に暑く、辛かったです。



Ohara Kenji  
大原 健司  
シニア・アナリスト

お題の通り、やはり大谷選手の活躍ですね。コロナ禍のときから現在までずっと励まされている人も多いと思います。



Matsumoto Ryoga  
松本 凌佳  
アナリスト  
ファンドマネージャー

「累計来客数100万人突破」というような張り紙を見ると、そういうものを集計する方法があり、そういうことができる人が社内にいるのだなあと思います。テーマパークなどは通常の分析とあわせてやりやすい業種だと思いますが、飲食店やホテルでこれを行っているのを見るとすごいなあと思います。



Ito Tsubasa  
伊藤 翼  
アナリスト

やはり日本株や米国株の最高値更新を連想します。今後も、より多くの方が資産効果を楽しんで経済の好循環につながるとよいなと思っています。



Watanabe Shota  
渡邊 庄太  
小型株戦略室長  
シニア・アナリスト  
シニア・ファンドマネージャー

記憶に新しいところだと8月5日の暴落でしょうか。でも下落幅の大きさは、バブル最高値を更新していた絶対水準の高さゆえでもあります。こういうイベントもこなしながら、少しずつ高値を切り上げていけたらよいなと願っています。



Oshiro Shintaro  
大城 真太郎  
シニア・アナリスト  
ファンドマネージャー

新高値を付ける銘柄は、何らからポジティブな変化・革新が起きる、ないしは起きているものです。一度は新高値を記録した日本がどう変わるんだろうか、楽しみです。

## 運用メンバーからのメッセージ



Fukumuro Mitsuo  
福室 光生  
債券戦略部長

徐々に記録更新できるものは個人的には永らく無いです。非連続的にアップデートできるよう日々努力しています。



Okai Yuki  
岡井 裕輝  
シニア・ファンドマネージャー

新記録の樹立ということそれ自体もちろん素晴らしいことですが、個人的な成長の追及の観点からも、投資家としての長期の資産形成の観点からも、そのような新記録に至るまでに費やされた時間や、よい時も悪い時もぶれずに一貫して取り組み続ける姿勢も、また同じくらいの注目に値するものだと思います。



Hashimoto Yuichi  
橋本 裕一  
ファンドマネージャー  
兼マーケットエコノミスト

日本企業の利益も全体で見れば過去最高を更新しています。賃上げや設備投資、株主還元の増加・継続に期待しています。消費を中心とした内需が盛り上がり初めて失われた30年を脱却できるはずで



Rahimian Behrad  
ラヒミアン ベーラド  
アナリスト  
ファンドマネージャー

最近、2年ぶりにベンチプレスの重量で自己ベストを更新しました。過去の自分を超えると素直に気持ちがいいものですね。



Miyake Kazuhiro  
三宅 一弘  
運用本部  
経済調査室長

2024年は日経平均株価やTOPIXが34年ぶりに最高値を更新しました。バブル崩壊と大恐慌で株価が1/10となったNYダウ30種は1954年に25年で最高値更新でした。艱難辛苦を経て日本株の復活を期待します。

### ひふみ公式LINEアカウント



「ひふみ」を運用するレオス・キャピタルワークスはお客様に向けてLINEでの情報提供を始めました。お客様と長期的な資産形成を一緒に行なっていくためにさまざまな情報をお届けします。

こちらから**LINEお友だち登録**をお願いします  
またはLINEにて「ひふみ」で検索

#### LINEでできること

- ✓ ひふみ口座へのログイン
- ✓ 記事コンテンツ、映像コンテンツの配信をお知らせ
- ✓ 当社イベント・セミナーのお知らせと申し込み
- ✓ メニュー画面からYouTube「お金のまなびば！」へ簡単アクセス
- ✓ 随時、ひふみからの記事や動画のお知らせも届きます！

## ひふみらいとの特色

「ひふみらいと」は、投資信託証券への投資を通じて、主として内外の株式および内外の債券に実質的に投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることを目的として運用を行ないます。

- ① 投資信託証券への投資を通じて、世界の株式および債券等に分散投資を行ないます。
- ② 原則として、株式に約10%、債券に約90%投資します。

## ひふみ投信の特色（ご参考）

「ひふみ投信」は、マザーファンドを通じて信託財産の長期的な成長を図るため、次の仕組みで運用します。

- ① 国内外の上場株式を主要な投資対象とし、市場価値が割安と考えられる銘柄を選別して長期的に投資します。
- ② 株式の組入比率は変化します。
- ③ 運用はファミリーファンド方式により、マザーファンドを通じて行ないます。

## ひふみワールドの特色（ご参考）

「ひふみワールド」は、マザーファンドを通じて信託財産の長期的な成長を図るため、次の仕組みで運用します。

- ① 日本を除く世界各国の株式等を主要な投資対象とし、成長性が高いと判断される銘柄を中心に選別して投資します。
- ② 株式の組入比率は変化します。
- ③ 株式の組入資産については、原則として為替ヘッジを行いません。
- ④ 運用はファミリーファンド方式により、マザーファンドを通じて行ないます。

### 投資リスク

#### ■ 基準価額の変動要因

- 投資信託証券への投資を通じて株式など値動きのある証券（外国の証券には為替リスクもあります。）に投資いたしますので、基準価額は、大きく変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割り込むことがあります。これらの運用により生じる利益および損失は、すべてお客様（受益者）に帰属します。
- 投資信託は預貯金等とは異なります。

#### ■ 基準価額の変動要因となる主なリスク

価格変動リスク	国内外の株式や公社債を実質的な主要投資対象とする場合、一般に株式の価格は個々の企業の活動や業績、市場・経済の状況等を反映して変動し、また、公社債の価格は発行体の信用力の変動、市場金利の変動等を受けて変動するため、その影響を受け損失を被るリスクがあります。
流動性リスク	有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性のもとでの取引が行なえない、あるいは不利な条件で取引を強いられたり、または取引が不可能となる場合があります。これにより、当該有価証券等を期待する価格で売却あるいは取得できない可能性があり、この場合、不測の損失を被るリスクがあります。
信用リスク	有価証券等の発行者や有価証券の貸付け等における取引先等の経営・財務状況が悪化した場合またはそれが予想される場合もしくはこれらに関する外部評価の悪化があった場合等に、当該有価証券等の価格が下落することやその価値がなくなること、または利払いや償還金の支払いが滞る等の債務が不履行となるおそれがあります。投資した企業等にこのような重大な危機が生じた場合には、大きな損失が生じるリスクがあります。また、実質的に投資した債券の発行体にデフォルト（債務不履行）が生じた場合またはそれが予想される場合には、債券価格が下落する可能性があり、損失を被るリスクがあります。
為替変動リスク	外貨建資産を組み入れた場合、当該通貨と円との為替変動の影響を受け、損失が生じることがあります。また、一部の資産において、為替ヘッジを行なう場合に円の金利が為替ヘッジを行なう通貨の金利より低いとき、この金利差に相当するヘッジコストが発生します。
カントリーリスク (エマージング市場 に関わるリスク)	当該国・地域の政治・経済情勢や株式を発行している企業の業績、市場の需給等、さまざまな要因を反映して、有価証券等の価格が大きく変動するリスクがあります。エマージング市場（新興国市場）への投資においては、政治・経済的不確実性、決済システム等市場インフラの未発達、情報開示制度や監督当局による法制度の未整備、為替レートの大きな変動、外国への送金規制等の状況によって有価証券等の価格変動が大きくなる場合があります。また、新興国の公社債は先進国の公社債と比較して価格変動が大きく、債務不履行が生じるリスクがより高いものになる可能性があります。

※投資リスク(基準価額の変動要因)は、上記に限定されるものではありません。

## お申込メモ

	ひふみらいと	ひふみ投信（ご参考）	ひふみワールド（ご参考）
商品分類	追加型投信／内外／資産複合	追加型投信／内外／株式	追加型投信／海外／株式
当初設定日	2021年3月30日	2008年10月1日	2019年10月8日
信託期間	無期限		
決算日	毎年4月15日(休業日の場合翌営業日)	毎年9月30日(休業日の場合翌営業日)	毎年2月15日(休業日の場合翌営業日)
収益の分配	決算時に収益分配方針に基づいて分配を行いません。分配金再投資専用のため、分配金は自動的に再投資されます。		
購入単位	1,000円以上1円単位の金額指定で受け付けます。		
購入価額	ご購入のお申込受付日の翌営業日の基準価額（1万口当たり）		
購入代金	販売会社が定める日までに販売会社にお支払いください。		
換金(解約)単位	1口以上の口数指定または1円単位の金額指定で受け付けます。		
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額（1万口当たり）		
換金代金	換金申込受付日から起算して6営業日目から支払われます。	換金申込受付日から起算して5営業日目から支払われます。	
購入・換金申込受付不可日	ニューヨーク証券取引所、ニューヨークの銀行、香港証券取引所、香港の銀行またはロンドンの銀行のいずれかの休業日と同じ日付の場合には、申込受付は行ないません。	—	ニューヨーク証券取引所または香港証券取引所のいずれかの休業日と同じ日付の場合には、申込受付は行ないません。
申込締切時間	購入・換金共に、毎営業日の15時までに受け付けたものを当日のお申込みとします。		
課税関係	課税上は、株式投資信託として取り扱われます。配当控除の適用はありません。公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合にNISA（少額投資非課税制度）の適用対象となります。		
	NISAの「成長投資枠（特定非課税管理勘定）」の対象です。	NISAの「成長投資枠（特定非課税管理勘定）」および「つみたて投資枠（特定累積投資勘定）」の対象です。	NISAの「成長投資枠（特定非課税管理勘定）」の対象です。
	詳しくは、販売会社にお問い合わせください。税法が改正された場合等には、変更となる場合があります。		

## お客様にご負担いただく費用

◇直接ご負担いただく費用：ありません。

申込手数料・換金（解約）手数料・信託財産留保額 は一切ありません。なお、「スポット購入」に際しての送金手数料はお客様負担となります。

◇間接的にご負担いただく費用：次のとおりです。

	ひふみらいと	ひふみ投信（ご参考）	ひふみワールド（ご参考）
運用管理費用（信託報酬）	ひふみらいと：信託財産の日々の純資産総額に対して年率 <b>0.55%（税込）</b> を乗じて得た額 投資対象とする投資信託証券（ひふみワールドファンドFOFs用(適格機関投資家専用)）：純資産総額に対して年率 <b>0.0022%（税込）</b> 実質的な負担※：純資産総額に対して年率 <b>0.5522%（税込）程度</b>	信託財産の日々の純資産総額に対して年率 <b>1.078%（税込）</b> を乗じて得た額	信託財産の日々の純資産総額に対して年率 <b>1.628%（税込）</b> を乗じて得た額
その他費用・手数料	信託報酬とは、投資信託の運用・管理にかかる費用のことです。日々計算されて、投資信託の基準価額に反映されます。毎計算期間の最初の6ヵ月終了日および毎計算期末または信託終了のとき信託財産から支払われます。 ※投資対象ファンドを基本の組入比率で按分した投資対象ファンドの運用管理費用（信託報酬）を加味して、投資者が実質的に負担する信託報酬率について算出したものです。この値は目安であり、各投資信託証券への投資比率の変更等により変動します。また、投資対象ファンドの変更等により今後変更となる場合があります。		
	投資対象とする投資信託証券における諸費用および税金等、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用（監査費用）およびそれにかかる消費税等、受託会社の立て替えた立替金の利息など。	組入る有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料（それにかかる消費税等）、先物取引・オプション取引等に要する費用、外貨建資産の保管等に要する費用、租税、信託事務の処理に要する諸費用、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用（監査費用）およびそれにかかる消費税等、受託会社の立て替えた立替金の利息など。	
	監査費用は日々計算されて毎計算期末または信託終了のとき、その他の費用等は都度ファンドから支払われます。これらの費用は、運用状況等により変動するものであり、予めその金額や上限額、計算方法等を具体的に記載することはできません。		

※手数料等の合計金額については保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

## 当資料のご留意点

- 当資料はレオス・キャピタルワークスが作成した販売用資料です。投資信託のお申込みにあたっては、事前に販売会社よりお渡しする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を十分にお読みになり、ご自身でご判断ください。
- 当資料に記載されている当社が運用する投資信託の過去の運用結果等は、将来の結果等をお約束するものではありません。また、当該過去の運用結果等は、当該投資信託に投資をされた各投資家の利回りを表すものではありません。運用実績は投資信託の利益にかかる税金等を考慮していません。
- 当資料は作成日における信頼できる情報に基づき作成しておりますが、内容の正確性・完全性を保証するものではなく、また記載されている内容は予告なく変更される場合があります。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。
- セミナー等で金融商品の説明等を行うことや、お客様からのご依頼がある場合に金融商品に関連する追加の説明等を行うことがあります。しかしながら、売買の推奨等を目的とした投資勧誘は行いません。また、金融商品の案内、説明等はあくまで各お客様ご自身のご判断に資するための情報提供目的であり、金融商品の購入等を推奨するものでもありません。

## ファンドの関係法人

委託会社：レオス・キャピタルワークス株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第1151号  
加入協会 一般社団法人投資信託協会  
一般社団法人日本投資顧問業協会  
受託会社：(ひふみらいと)三井住友信託銀行株式会社  
(ひふみ投信)三井住友信託銀行株式会社  
(ひふみワールド)三菱UFJ信託銀行株式会社  
販売会社：レオス・キャピタルワークス株式会社

※詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）をご確認ください

## 各ファンドについてのお問い合わせ先



レオス・キャピタルワークス株式会社  
コミュニケーション・センター  
電話：03-6266-0123 メール：cc@rheos.jp  
受付時間：営業日の9時～17時  
ウェブサイト：<https://www.rheos.jp/>